

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 足立 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

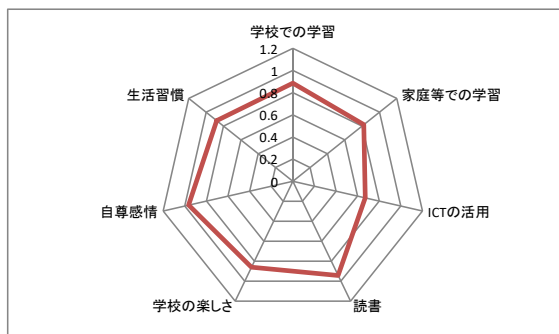
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の内容「話すこと・聞くこと」について課題がある。 学習指導要領の内容「書くこと」については全国と同程度である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文脈に即して漢字を正しく書く問題と自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く問題	
	努力が必要な問題	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域「関数」「図形」について課題がある。 評価の観点「知識・技能」について課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題場面における考察の対象を明確に捉える問題	
	努力が必要な問題	与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取る問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域「粒子」「生命」について課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	化学変化を化学反応式で表す問題	
	努力が必要な問題	生物を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話やスマートフォン、テレビゲームを使う割合(時間)が全国を大きく上回るのに対し、家庭学習の時間が大幅に下回っている。 ・「自分にはよいところがある」など、自尊心を持つ割合が全国を下回っている。 ・「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていてと思う」について、肯定的な回答が全国を上回っている。 ・ICT機器の活用頻度が全国を大幅に下回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・「授業中に自分で調べる場面」「学級の生徒と意見を交換する場面」「自分の考えをまとめ、発表する場面」等におけるICT機器の活用を積極的に進める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭との連携をすすめ、基本的な生活習慣、家庭学習習慣の定着を図る。
・卒業時の進路選択に止まらず、中・長期的な見通しをもって夢や目標を掲げ、自己実現を図っていけるよう『キャリア教育』を充実させる。